

発行/モザイク会議 議長 森敬美

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104

モザイク会議ホームページ：<http://www.maa-jp.com/> Email: maaj@maa-jp.com

編集/作成：モザイク会議運営委員会

モザイクベンチ完成

多治見で開催された国際陶磁器フェスティバル協賛イベント

としてモザイクのベンチ5基を製作しました。

完成したベンチは、モザイクタイルミュージアムに寄贈しました。

来年初頭にミュージアム近傍に設置される予定です。

会場・セラミックパークMINO(岐阜県多治見市)

下準備のために山梨県都留市の会員、橋村さんのアトリエを目いっぱいお借りしました。そこで7日間延べ70人の会員ならびに協力者が参加してくれました。多治見の会場では6日間延べ45人の会員が集まって、ワークショップの運営とベンチの仕上げに携わりました。



タイルを張り終えたベンチの仕上げ。
タイルの角を磨って、けが防止。
そのあと目地セメントを詰めます。



完成したベンチはセラミックパークの一隅で保管してもらっています。

モザイク展 2017 の総評を審査員の村田さんから頂きました。
主にプロを目指す人を対象にちょっと辛口です。



村田真

モザイク展 2017 審査員
美術ジャーナリスト

総評

ほくの作品に対する評価基準は昨年と変わらないし、また先日の講演会で多少話したので、総評を記す前に口福ったいながら 2 点ほど指摘しておきたいことがある。年寄りの冷や水として聞き流していたきたい。まず 1 点は、講演会のとときに、未完成作品を出して「忙しかったから」「時間がなかったから」と言いわけする人が何人かいたこと。小学生じゃあるまいし、言いわけしてイワケないだろ！時間が足りないなりに計画を立てて進めるべきだし、それでも完成しなかったら自己管理能力が欠けていたことを反省し、潔く出さないか、ガタガタいわずに未完成のまま出すかのどちらかだ。言いわけしたところでだれも同情しないし、単に見苦しいだけだ。

もう 1 点は、美術の知識が乏しいこと。モザイクは当然ながら美術の 1 ジャンルなのに、とくに現代美術に関して基礎的な知識に欠けている者が少なくない。にもかかわらずモザイクが現代美術として認められないとか、美術業界から無視されるといった不満を述べたりする。矛盾してないか？ 現代美術として認められたいのなら現代美術とはなにかを徹底的に勉強し、そのどこにモザイクが入り込む余地があるのか、どのように入り込んでいけばいいのかを研究しなければならない。村上隆はそれを日本画でやり、世界的なアーティストになった（村上隆ってだれ？なんていわないでね）。ドメス ティックな日本画でさえできるんだから、モザイクにできないはずはない。

以上 2 点は美は同じ極でつながっている。それは「甘え」だ。その甘えがどこから来るのかといえ、ひとつは「モザイク会議」そのものから来ていると思う。同好の志が集まれば社会的に力になるし、お互いに切磋琢磨できるメリットがある反面、エネルギーが内側に向かい、狭い世界で満足しがちだからだ。こうして世間から取り残されてしまったことにも気づかず、それが世界のすべてだと勘違いしてしまう。要するに、井のなかの蛙。もう少し現代美術の人たちと交流するなり勉強会を開くなり、意識改革が必要ではないか。急いで総評を述べたい。福原与恵、荻島摩美、碧壺希子はモザイク固有の表現において、今野栄子、岩田英雅、高井豊治は不動態美術としてのモザイクの記憶を踏まえた表現において、森敏美は

モザイク小品展・開催日決定

期日は 2018 年 9 月 22 日～28 日

あざみ野のモザイク展がない偶数年に例年開催しているオリエギャラリーでの
小品展を 2018 年も開催します。
展覧会のテーマは未定です。詳細、募集要項は次号で発表します。

ラヴェンナのモザイクフェスティバル

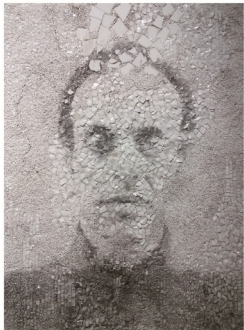
記・喜井豊治

ラヴェンナモザイク (Ravenna Mosaico) というイベントがイタリア、ラヴェンナ市で行われた。

2年ごとに開催されるモザイクフェスティバルで、今年は10月8日から始まった。初日は「黄金の夜」と名付けられ午前2時まで広場でコンサートが開かれ、バーやレストランも営業を続ける賑やかなイベントが繰り広げられる。もともと夏の終わりを告げる祭りの日で、モザイクフェスティバルをその日に合わせて始めたようだ。この日を挟んで数日の間に20以上のモザイク屋が市内でオープンし、特に初日の10月7日には18箇所で、昼から夜の9時まであちこちで、オープニングレセプションが開かれた。集まったモザイク愛好家、作家は各所のオープニングをはしごするので大忙し。どこも道まで人がみ出す超満員で、各所に少なくとも200人以上が訪れていたのではないかと推測される。展示会の会期はまちまちなので、このフェスティバルがいつ終わったのかわからない。一番長い展示会は来年1月末まで開かれる。気になった作品をいくつか紹介する。



モザイクフェスティバルのポスター



フランスの作家、クレマン・ミッテランの作品。白いズマルトを様々なかたちにして並べた面に、写真を焼き付けてある。オーソドックスなモザイクを作らせても、うまい。



マルコ・ランディ (土台は彫刻家の作品)



ドゥシャナ・ブラブーラ



サンドロ・キア



マルコ・ブラブーラ



パオロ・ラッカーニ



マウコ・デ・ルカ



二人組「Aneme」の作品



スザンナ・スパーヒ



オローデ・デオーロ